

平成 26 年 度

岡山市病院事業会計決算審査意見書

岡山市監査委員

岡 監 第 117 号  
平成 27 年 7 月 29 日

岡山市長 大 森 雅 夫 様

岡山市監査委員	白 神 利 行
同	種 田 和 英
同	鷹 取 清 彦
同	松 田 安 義

平成 26 年度岡山市病院事業会計決算審査意見について

地方公営企業法第 30 条第 2 項の規定により審査に付された平成 26 年度岡山市病院事業会計決算並びに各証書類その他関係書類を審査した結果、別紙のとおり意見を提出します。

## 目 次

第 1	審 査 の 対 象	1
第 2	審 査 の 期 間	1
第 3	審 査 の 方 法	1
第 4	審 査 の 結 果	1
1	業 務 の 概 要	2
2	予 算 の 執 行 状 況	2
3	経 営 成 績	4
4	財 政 状 態	7
5	む す び	10
	資 料	11

- (注) 1 文中の金額は、原則として万円単位で表示し、端数は切り捨てた。このため計数が一致しない場合がある。
- 2 文中の比率及び各表中の数値は、原則として表示の1桁下位で四捨五入した。このため計数が一致しない場合がある。
- 3 文中に用いるポイントとは、パーセンテージ間又は指数間の単純差引数値である。
- 4 各表中の符号の用法は、次のとおりである。
- 「0.0」・・・該当数値はあるが、単位未満のもの
- 「－」・・・算出不能、該当数値のないもの

## 平成 26 年度岡山市病院事業会計決算審査意見

### 第 1 審査の対象

平成 26 年度岡山市病院事業会計決算

### 第 2 審査の期間

平成 27 年 6 月 29 日から

平成 27 年 7 月 29 日まで

### 第 3 審査の方法

審査に当たっては、平成 26 年度岡山市病院事業決算報告書及び財務諸表並びに証書類、事業報告書及びキャッシュ・フロー計算書、収益費用明細書、固定資産明細書、企業債明細書が関係法令に準拠して作成されているか、事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているかどうかについて審査するとともに、関係者からの説明を聴取し、会計帳票、証拠書類との照合及び経営内容の動向を把握するため計数の分析を行い、年次比較等の検討を加えた。

なお、平成 26 年度の予算・決算から改正地方公営企業会計基準が適用されていることから、年次比較にあたっては、財務諸表に表示される項目の一部に大幅な数値の増減があることに留意した。

### 第 4 審査の結果

審査に付された決算書類及び決算附属書類は、いずれも関係法令に準拠して作成されており、関係諸帳簿等と照合審査の結果、計数は正確であり、かつ、本年度の経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認めた。

なお、決算概要及び審査意見は、次のとおりである。

## 1 業務の概要

岡山市病院事業会計における国立病院機構岡山市立金川病院は、本年度新たに救急病院に認定されるとともに、診療科は、内科、外科、リハビリテーション科、眼科及び皮膚科の5科体制で、引き続き地域医療を担っている。(病床数30床)

### (1) 業務実績

国立病院機構岡山市立金川病院は、指定管理者制度を利用して国立病院機構が病院運営を行っているため、岡山市病院事業としての業務実績はない。

### (2) 建設改良事業

本年度の建設改良事業はない。

## 2 予算の執行状況

### (1) 収益的収入及び支出

収益的収入及び支出の予算執行状況は、次表のとおりである。(資料第1-1参照)

収益的収入及び支出の予算執行状況

区 分	予 算 額 A	決 算 額 B	執 行 率 B/A	予算額に比し 増、減(△) 又は不用額
	円	円	%	円
収 益 的 収 入	13,611,000	11,574,217	85.0	△ 2,036,783
収 益 的 支 出	52,352,000	50,405,865	96.3	1,946,135

(注) 決算額のうち、収益的収入における仮受消費税及び地方消費税は0円、収益的支出における仮払消費税及び地方消費税は8,805円である

収益的収入決算額1,157万円は、予算額1,361万円に対し85.0%の執行率、収益的支出決算額5,040万円は、予算額5,235万円に対し96.3%の執行率となっている。

収益的収入において、負担金交付金が減少したため、決算額が予算額を下回っている。

収益的支出において、不用額の主なものは経費で、修繕費が見込みより少なかったためである。

(2) 資本的収入及び支出

資本的収入及び支出の予算執行状況は、次表のとおりである。(資料第 1-2 参照)

資本的収入及び支出の予算執行状況

区 分	予 算 額 A	決 算 額 B	執 行 率 B/A	予算額に比し 増, 減 (△) 又は不用額
資 本 的 収 入	円 3,423,000	円 422,244	% 12.3	円 △ 3,000,756
資 本 的 支 出	3,423,000	422,244	12.3	3,000,756

(注) 決算額のうち、資本的収入における仮受消費税及び地方消費税並びに資本的支出における仮払消費税及び地方消費税は 0 円である

資本的収入決算額 42 万円は、予算額 342 万円に対し 12.3%の執行率、また、資本的支出決算額 42 万円は、予算額 342 万円に対し 12.3%の執行率となっている。

### 3 経営成績

#### (1) 総合成績

総合成績（総収益）は、次表のとおりである。（資料第2、第4参照）

年度	総 収 益		総 費 用		損益（△損失） A - B	当年度未処分 利益剰余金 （△累積欠損金）	総収支 比率 A / B
	金額 A	前年度比 指数	金額 B	前年度比 指数			
	円	%	円	%	円	円	%
24	11,396,785	— 100	51,581,913	— 100	△ 40,185,128	△ 45,523,621	22.1
25	11,930,292	104.7 104.7	51,941,220	100.7 100.7	△ 40,010,928	△ 85,534,549	23.0
<b>26</b>	<b>11,574,217</b>	<b>97.0</b> <b>101.6</b>	<b>50,405,865</b>	<b>97.0</b> <b>97.7</b>	<b>△ 38,831,648</b>	<b>△ 124,366,197</b>	<b>23.0</b>

（注）・旧金川病院の清算処理に伴い、平成24年度は前年度繰越欠損金5,338,493円を計上している  
・指数は平成24年度を100として算出

総収益は1,157万円、総費用は5,040万円となっている。その結果、総収支比率は23.0%を示し、3,883万円の純損失を生じ、累積欠損金は1億2,436万円となっている。

#### (2) 経常収益

経常収益は1,157万円で、前年度に比べ3.0%の減収であり、科目別内訳は、次表のとおりである。（資料第2参照）

#### 経 常 収 益

科 目	26 年 度		25 年 度		増, 減 (△) C (A - B)	C / B
	金 額 A	構成比	金 額 B	構成比		
	円	%	円	%	円	%
医 業 収 益	139,980	1.2	819,755	6.9	△ 679,775	△ 82.9
入 院 収 益	—	—	—	—	—	—
外 来 収 益	—	—	—	—	—	—
その他医業収益	139,980	1.2	819,755	6.9	△ 679,775	△ 82.9
医 業 外 収 益	11,434,237	98.8	11,110,537	93.1	323,700	2.9
受取利息配当金	250	0.0	443	0.0	△ 193	△ 43.6
負担金交付金	11,105,993	96.0	11,110,094	93.1	△ 4,101	△ 0.0
補 助 金	0	0	0	0	0	—
長期前受金戻入	327,994	2.8	—	—	327,994	—
<b>合 計</b>	<b>11,574,217</b>	<b>100</b>	<b>11,930,292</b>	<b>100</b>	<b>△ 356,075</b>	<b>△ 3.0</b>

経常収益は前年度に比べ 35 万円 (3.0%) の減収となっている。これは医業外収益は 32 万円 (2.9%) 増加したが、医業収益が 67 万円 (82.9%) 減少したためである。

主な科目の増減状況は、次のとおりである。

ア 入院収益

指定管理者制度を利用しているため、該当はない。

イ 外来収益

指定管理者制度を利用しているため、該当はない。

ウ その他医業収益

その他医業収益は 13 万円で、前年度に比べ 67 万円 (82.9%) の減収となっている。

エ 一般会計負担金

一般会計負担金の状況は、次のとおりである。(資料第 4 参照)

医業収益に含まれる一般会計負担金は 13 万円で、これは金川病院管理負担金である。

医業外収益に含まれる一般会計負担金は 1,110 万円で、これは企業債利息償還額に対する負担金で、前年度に比べ微減となっている。

また、病院事業資本的収入に含まれる他会計負担金は、42 万円で、前年度に比べ 299 万円 (87.7%) の減収となっている。これは、建設改良費に対する負担金が 299 万円皆減したためである。

(3) 経常費用

経常費用は 5,040 万円で、前年度に比べ 3.0% の減費であり、科目別内訳は、次表のとおりである。(資料第 2 参照)

経 常 費 用

科 目	26 年 度		25 年 度		増, 減 (△) C (A - B)	C / B
	金 額 A	構成比	金 額 B	構成比		
	円	%	円	%	円	%
医 業 費 用	35,477,426	70.4	36,993,940	71.2	△ 1,516,514	△ 4.1
給 与 費	—	—	—	—	—	—
材 料 費	—	—	—	—	—	—
経 費	131,175	0.3	782,118	1.5	△ 650,943	△ 83.2
減価償却費	35,346,251	70.1	36,211,822	69.7	△ 865,571	△ 2.4
医 業 外 費 用	14,928,439	29.6	14,947,280	28.8	△ 18,841	△ 0.1
<b>合 計</b>	<b>50,405,865</b>	<b>100</b>	<b>51,941,220</b>	<b>100</b>	<b>△ 1,535,355</b>	<b>△ 3.0</b>

経常費用は前年度に比べ 153 万円 (3.0%) の減費となっている。これは主に、医業費用が 151 万円 (4.1%) 減少したためである。

主な科目の増減状況は、次のとおりである。



ア 給与費

指定管理者制度を利用しているため、該当はない。

イ 材料費

指定管理者制度を利用しているため、該当はない。

ウ 経費

経費は13万円で、前年度に比べ65万円(83.2%)の減費となっている。

エ 減価償却費

減価償却費は3,534万円で、前年度に比べ86万円(2.4%)の減費となっている。

オ 医業外費用

医業外費用は1,492万円で、前年度に比べ1万円(0.1%)の減費となっている。

(4) 経営成績

ア 医業収支

指定管理者制度を利用しているため、本来の医業に対するものはないが、減価償却費が発生することや、経費に対する負担金収入があるため、医業収支が発生することとなる。

医業損益は、医業収益が13万円、医業費用が3,547万円で、差し引き3,533万円の損失となっている。(資料第2参照)

イ 経常収支

経常的な損益を示す経常損益は、経常収益が1,157万円、経常費用が5,040万円で差し引き3,883万円の損失となっている。(資料第2参照)

また、経常収益と経常費用を対比し、経常的な収益と費用の関連を示す経常収支比率は、23.0%で前年度と同率となっている。(資料第5参照)

以上の経営成績をまとめると、次表のとおりである。

経営成績の分析

区分	26年度	25年度	前年度比
	円	円	%
医業収益(A)	139,980	819,755	17.1
医業費用(B)	35,477,426	36,993,940	95.9
医業損益(A-B)	△ 35,337,446	△ 36,174,185	97.7
医業外収益(C)	11,434,237	11,110,537	102.9
医業外費用(D)	14,928,439	14,947,280	99.9
経常収益(E=A+C)	11,574,217	11,930,292	97.0
経常費用(F=B+D)	50,405,865	51,941,220	97.0
経常損益(E-F)	△ 38,831,648	△ 40,010,928	97.1
<b>経常収支比率 (E/F)</b>	<b>23.0%</b>	<b>23.0%</b>	

## 4 財政状態

### (1) 資産

資産の総額は9億2,956万円で、前年度末に比べ4,155万円(4.3%)減少している。  
(資料第3参照)

#### ア 固定資産

固定資産は9億2,926万円で、前年度末に比べ1,202万円(1.3%)減少している。このうち、建物は6億4,553万円で、減価償却により2,779万円(4.1%)減少している。  
器械備品は139万円で、みなし償却制度の廃止等により285万円減少している。

#### イ 流動資産

流動資産は30万円で、前年度末と同額である。

### (2) 負債

負債の総額は6億3,402万円である。(資料第3参照)

#### ア 固定負債

固定負債は6億3,290万円である。  
なお、企業債残高の状況は、次表のとおりである。

#### 企業債残高

年 度	26 年 度	25 年 度	24 年 度
金 額	633,500,000 円	633,922,244 円	634,344,460 円

#### イ 流動負債

流動負債は89万円である。

#### ウ 繰延収益

繰延収益は22万円である。

### (3) 資本

資本の総額は2億9,554万円である。(資料第3参照)

#### ア 資本金

資本金は4億1,989万円である。

#### イ 剰余金

剰余金はマイナス1億2,434万円で、前年度末に比べ4,135万円(49.8%)マイナス額が増加している。

累積欠損金(当年度未処理欠損金)は1億2,436万円で、前年度末に比べ3,883万円(45.4%)

増加している。

(4) 構成比率及び財務比率

構成比率及び財務比率の状況は、次表のとおりである。(資料第5参照)

構成比率及び財務比率

分 析 項 目		年度	単位：%
構 成 比 率	自 己 資 本 構 成 比 率	24	36.8
	$\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}}{\text{総資本(負債資本合計)}} \times 100$	25	34.7
	(比率は大きいほどよい)	<b>26</b>	<b>31.8</b>
財 務 比 率	流 動 比 率	24	100
	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	25	100
	(望ましい比率 200%以上)	<b>26</b>	<b>33.5</b>
当 座 比 率	当 座 比 率	24	100
	$\frac{\text{現金預金} + \text{未収金}}{\text{流動負債}} \times 100$	25	100
	(望ましい比率 100%以上)	<b>26</b>	<b>33.5</b>
固 定 資 産 対 長 期 資 本 比 率	固 定 資 産 対 長 期 資 本 比 率	24	96.7
	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{固定負債} + \text{繰延収益}} \times 100$	25	97.0
	(望ましい比率 100%以下)	<b>26</b>	<b>100.1</b>

ア 自己資本構成比率

自己資本構成比率は、前年度末に比べ2.9ポイント低下し31.8%となっている。

イ 流動比率

流動比率は、前年度末に比べ66.5ポイント低下し、33.5%となっている。

ウ 当座比率

当座比率は、前年度末と比べ66.5ポイント低下し、33.5%となっている。

エ 固定資産対長期資本比率

固定資産対長期資本比率は、前年度末に比べ3.1ポイント低下し100.1%となっている。これは、剰余金のマイナス額が増加したためである。

## (5) キャッシュ・フローの状況

キャッシュ・フロー計算書は、一会計期間における現金及び預金の増加または減少の状況を表したものである。岡山市病院事業会計において、平成26年度における現金及び預金の増減はない。

## キャッシュ・フロー計算書

(単位：円)

区 分	平成26年度
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
当 年 度 純 利 益	△ 38,831,648
減 価 償 却 費	35,346,251
長 期 前 払 消 費 税 償 却	3,813,391
長 期 前 受 金 戻 入	△ 327,994
受 取 利 息 及 び 配 当 金	△ 250
支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費	11,106,243
小 計	11,105,993
利 息 及 び 配 当 金 の 受 領 額	250
利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費 の 支 払 額	△ 11,106,243
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>0</b>
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
一 般 会 計 か ら の 繰 入 金 に よ る 収 入	422,244
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>422,244</b>
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
建 設 改 良 費 等 の 財 源 に 充 て る た め の 企 業 債 の 償 還 金	△ 422,244
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 422,244</b>
IV 資 金 増 減 額	0
V 資 金 期 首 残 高	300,000
VI 資 金 期 末 残 高	300,000

## 6 む す び

岡山市病院事業会計の運営状況の概要は、以上のとおりである。

岡山市病院事業会計に係る病院は、国立病院機構岡山市立金川病院であるが、病院事業の主たる事業である病院の運営は、国立病院機構を指定管理者として実施している。

したがって、岡山市は病院事業には直接的には携わっていない。しかし、病院事業運営以外については、建物の維持管理に伴う経費や企業債元利償還金等の支出、及びそれらに対応した負担金収入などの経理並びに建物等の経年劣化に伴う減価償却費の費用計上などの決算処理が必要となる。

本年度の経営成績についてみると、総収益 1,157 万円、総費用 5,040 万円で、3,883 万円の純損失を生じ、累積欠損金は前年度末の 8,553 万円から 1 億 2,436 万円へと増加している。この主な要因は、減価償却費である。

国立病院機構岡山市立金川病院では、本年度新たに救急病院に認定されるとともに、引続き内科、外科、リハビリテーション科、眼科及び皮膚科の診療科数 5、病床数 30 床の体制となっている。

国立病院機構岡山市立金川病院の指定管理による病院運営にとって、岡山市病院事業会計の健全な管理運営は不可欠であり、今後とも指定管理者である国立病院機構との連携を図り、地域医療により貢献されるよう要望する。